

第7回
明倫短期大学学会
総会・学術大会

プログラム・抄録集

会 期：2008年11月29日（土）

会 場：明 倫 短 期 大 学

大会長：花田 晃治（明倫短期大学学長）

第7回明倫短期大学学会 総会・学術大会 日程

開催日：平成20年11月29日(土)

1. 理事会 10:30～11:00
第一会議室(1号館)
2. 総会 11:15～11:45
明倫短期大学大講堂(5号館)
3. 特別講演 13:00～14:30
明倫短期大学大講堂(5号館)
4. 一般講演 14:45～17:10
明倫短期大学大講堂(5号館)
5. 懇親会 18:00～19:00
国際技術交流会館1F 食堂(7号館)

【 タイムテーブル 】

	受付開始(11:00～)	理事会(10:30～)
11:15	総会	
11:45	(昼食)	
13:00	特別講演	
14:30	(休憩)	
14:45	一般講演Ⅰ	
15:15	(休憩)	
15:30	一般講演Ⅱ	
16:10	(休憩)	
16:25	一般講演Ⅲ	
17:10	(移動)	
18:00	懇親会	
19:00		

— 学術大会プログラム —

● 特別講演 _____ 13:00~14:30

座長 花田 晃治 (明倫短期大学学長)

『 咬合面形態とその役割

～食事の際に粉碎された食片がなぜ口腔外にこぼれないのでしょうか～ 』

講師 河野 正司 (明倫短期大学歯科技工士学科長)

● 一般講演

Session I (座長: 野村 章子) _____ [14:45~15:15]

1. エンゼルケアにおける簡易型「エンゼル義歯」
○宮沢玲子¹, 江川広子², 野村章子³, 伊藤圭一³, 小山 覚¹
(¹ 済生会新潟第二病院, ² 明倫短期大学歯科衛生士学科, ³ 明倫短期大学歯科技工士学科)
2. ことばクリニック来室者の歯科受診について
○小林 梢, 大平芳則¹, 青木さつき², 渡辺紗江子²
(明倫短期大学附属歯科診療所, ¹ 明倫短期大学専攻科保健言語聴覚学専攻, ² 明倫短期大学ことばクリニック)
3. 集団コミュニケーション療法が小児の発達および個別療法に及ぼす効果について
○渡辺紗江子, 青木さつき
(明倫短期大学ことばクリニック)

Session II (座長 : 山田 隆文) _____ [15:30~16:10]

4. 上級者を対象とした歯型彫刻技術の指導法に関する一考察
○大沼誉英, 木暮ミカ
(明倫短期大学歯科技工士学科)

5. 「歯科保健指導」教育における口腔内観察実習の有用性
○小野真奈美, 本間和代, 渡邊美幸
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

6. 明倫短期大学における理系科目初年次教育プログラムの検討
— 本学学生の理系科目成績と素行や嗜好との関連性の調査 —
○植木一範
(明倫短期大学歯科技工士学科)

7. 視覚障害者および高齢者疑似体験学習の教育効果
○渡邊美幸, 平澤明美
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

Session III (座長 : 小黒 章) _____ [16:25~17:05]

8. 中学生に対する歯肉炎予防指導の取組み
○木戸真紗美, 渡邊美幸, 本間和代
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

9. 新発田市民における口腔衛生の実態と意識調査
○幸田奈美, 平澤明美, 本間和代
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

10. ペングリップ等の要因が指頭感覚操作の精度に及ぼす影響
○本間和代, 幸田奈美, 小野真奈美, 木戸真紗美
(明倫短期大学歯科技工士学科)

11. 歯科技工実習における騒音実態調査
○五十嵐雅子, 植木一範
(明倫短期大学歯科技工士学科)

咬合面形態とその役割

—食事の際に粉碎された食片がなぜ口腔外にこぼれないのでしょうか—

河野 正司

明倫短期大学 歯科技工士学科長

上下の歯が噛み合った咬頭嵌合位の歯列を頬側面から見ると、上顎の頬側咬頭内斜面が下顎の頬側咬頭を被蓋するようになっている。

食物を口腔内に摂取してから嚥下までの様相を観察すると、一側で数回噛むと咀嚼側を変えて反対側の歯列で噛み、また咀嚼側を乗り換えながら咀嚼が進行していく。

また、歯が噛み合う上下の咬合面間の間隙を第一大臼歯で観察すると、咬頭嵌合位では咬合面全体が緊密に接触しているが、咬合面に食物を取り込む側方位においては、上下顎咬合面の頬側咬頭と舌側咬頭に囲まれた「圧搾空間」と呼ばれる空間が形成されている。

この空間に取り込まれた食物が、咬頭嵌合位までの運動により粉碎・圧搾されて、咬合面の近心舌側から固有口腔に押し出されていくことがわかってきた。

このように、側方位から咬頭嵌合位へ噛み込み、上下顎咬合面の圧搾空間がつぶされることで、食物は粉碎されるとともに、食片が自動的に近心舌側から口腔内の舌の上に移送されるようになっている。

上記の3項が同時に働くことにより、食事の際に粉碎された食片が口腔外にこぼれないで、食塊形成されて、滑らかに嚥下へと移行していくのである。

この3つの要件のうち1つでも欠けてくると、粉碎食物が口腔外に飛び出したり、食物が口腔前庭に貯留して嚥下できない状態となり、歯周病や齲蝕、さらには口臭の原因となるばかりでなく、高齢者にとっては誤嚥を招きかねない危険な状態となってくる。

河野 正司 先生 御略歴

昭和 40 年 3 月	東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和 44 年 3 月	東京医科歯科大学院修了 歯学博士
平成 5 年 3 月	新潟大学歯学部教授 歯科補綴学第1講座担当
平成 8 年 4 月	新潟大学歯学部附属技工士学校長
平成 11 年 4 月	新潟大学歯学部附属病院長
平成 13 年 4 月	新潟大学大学院教授 医歯学総合研究科摂食機能再建学分野担当
平成 15 年 10 月	新潟大学副学長
平成 16 年 4 月	国立大学法人新潟大学理事・副学長
平成 20 年 2 月	明倫短期大学教授

1 エンゼルケアにおける簡易型「エンゼル義歯」

○宮沢玲子¹，江川広子²，野村章子³，伊藤圭一³，小山 寛¹

(¹済生会新潟第二病院，²明倫短期大学歯科衛生士学科，³明倫短期大学歯科技工士学科)

【はじめに】エンゼルケアは，おもに看護師による死後の全身清拭であるが，口腔清掃も行われており，家族の希望があれば，死亡後の入浴やメイク・故人愛用の衣服着用等も施される．一方，長期入院や終末期の患者には，義歯を装用していないために生前の面影が損なわれている現状がある．そこで，歯科的観点から，自然な面影を整え，家族にとって穏やかな「お別れ」の時を迎えられるよう支援するために，エンゼルケアにおける簡易型義歯の必要性を検討し，作製を試みた．

【方法】口腔ケア介入を行った入院患者10名に対しては義歯の装用状況を，その家族10名には「お別れ」の時の義歯作製の希望について聞き取り調査を行った．次に，暫間クラウン用シェル（松風）とユーティリティークラックス（ジーシー）および歯科用シリコンのタイタニウム（セルマック）を使用する簡易型義歯を作製した．

【結果】聞き取り調査から，患者10名中4名は義歯を装用しており，6名は入院中に義歯が必要

な口腔内状況にありながら義歯作製の希望がないことがわかった．しかし，家族10名中9名は「お別れ」の時があるとすれば，義歯の作製を望むとの回答を得た．

簡易型義歯の作製には15分程度を要し，義歯床として使用したユーティリティークラックスとタイタニウムの比較では，操作性と仕上がりの点において，タイタニウムが良好であった．

【まとめ】一般に，エンゼルケアにおいて歯科衛生士が口腔清掃を行うことは可能であるが，今回の試みから，家族が望む口元を整える義歯の必要性を確認した．今後は，歯科医師，歯科衛生士，歯科技工士の連携で，簡易型「エンゼル義歯」の改良を行う予定である．

【参考文献】

- ・小林光恵，村澤博人他：特集 ケアとしてのエンゼルメイク，ナーシング・トゥデイ，2号，18-39頁，日本看護協会出版会，2004

2 ことばクリニック来室者の歯科受診について

○小林 梢，大平芳則¹，青木さつき²，渡辺紗江子²

(明倫短期大学附属歯科診療所，¹専攻科保健言語聴覚学専攻，²ことばクリニック)

【はじめに】本学には，その中にことばクリニックを持つという，全国的にもまれな附属歯科診療所がある．そして，来院される患者の中には，歯科診療とことばの訓練（ST）の両方を受ける方がいる．そこで，歯科診療とSTの両方を受けた方の実態を調査し，当診療所が果たす地域の保健医療における役割について考察する．

【方法】ことばクリニック開設（2004年10月）から2008年9月までの4年間の，歯科診療とSTの両方を受けた人の歯科診療内容を，また，STを受けた人の家族の歯科受診状況を，パワーカルテから調査した．

【結果】4年の間にSTを受けた者は620名で，そのうち歯科診療も受けた患者は91名（15%）であった．歯科診療の内訳は，一般治療のみが45名（50%），フッ素塗布のみが28名（31%），一般治療とフッ素塗布両方が18名（20%）であった．また，STを受けた人の家族で歯科受診をした人は92名おり，その内訳は，親49名（53%），同胞41

名（45%），その他2名（2%），歯科診療の内訳は，一般治療75名（82%），フッ素塗布17名（18%）であった．

【考察】歯科診療を受ける患者のうち，STが必要な者は少ないと思われるが，一方ST受診者には，予防処置を含む歯科診療の適応のある者が相当数いると考えられる．しかし，ST受診者のうち歯科診療も受けた人は15%と低い比率にとどまった．その理由として，すでに他院で治療を受けている者がいること，予防処置の大切さが十分認識されていないこと，が挙げられる．歯科診療を受けるST受診者を増やすためには，従前以上に予防処置の重要性について啓発する必要がある．また，ST受診者には親がつきそうことが多いが，単につきそいのためだけに来院するのではなく，同時に歯科受診をすることのメリットは大きい．兄弟など親以外の家族と一緒に来院し，受診することも同様である．その結果として，当診療所が果たす地域医療への貢献はさらに増すことになる．

3 集団コミュニケーション療法が小児の言語およびコミュニケーション発達に及ぼす効果

○渡辺紗江子, 青木さつき

(明倫短期大学附属歯科診療所ことばクリニック)

【はじめに】明倫短期大学附属歯科診療所「ことばクリニック」では、本年度9月から新たな取り組みとして、2歳から4歳までの、当クリニックで個別指導を受けている子どもを対象に、集団コミュニケーション療法を開始した。そこで、今回は2事例を通してこの3ヶ月間を振り返り、集団コミュニケーション療法が子どもに及ぼす効果について報告する。

【事例】1. 平成19年秋から月1回通院している3歳男児(自閉症)。こだわりが強く、大人であれば家族以外とも関わることができるようになったものの、子どもとは全く関わることができず、同室にもいられない状態であった。しかし、週1回の集団コミュニケーション療法によって、次第に子どもと一緒にいることにも慣れ、他の子どもとおもちゃの貸し借りをしたり、頻繁に会う子については名前を覚えて呼びかける様子も見られるようになった。

2. 平成20年春から月2回通院している3歳男児(自閉症)。入室当初は発語はほとんどなく、課題

も一切拒否していた。しかし、集団コミュニケーション療法によって、指差しも声を出すことも格段に増え、言える単語も増えてきている。パズルなどの課題は座って取り組むこともできるようになった。

【まとめ】集団コミュニケーション療法の利点として、①個別療法では予約がなかなか取れず、月2回が限界なのが現状であるが、集団療法により、訓練の頻度を上げられること②最近では兄弟がいない子どもが多く他の子どもと関わる機会が極端に少ないが、そのような子どもたちが、入園前に同年代の子どもと関わる貴重な経験を積むことができること③保護者にとっても、同じように、子どもの発達や障害に悩む他の保護者との関わりで疑問や不安が軽減すること、などがある。

今後は対象とする子どもの年齢を広げていくことや、集団コミュニケーション療法の訓練内容を発展させることなどを通して、患者のニーズに更に応えていくことが望まれる。

4 上級者を対象とした歯型彫刻技術の指導法に関する一考察

○大沼誉英, 木暮ミカ

(明倫短期大学歯科技工士学科)

【緒言】

歯型彫刻とは、歯の解剖を基にして歯の形態を彫刻技法により客観的かつ正確に造形する基本的な歯科技術である。しかし、通常の実習では複数の指導教員の目視による主観評価が指導の根拠となっているため、指導内容が属人化する傾向にあり、指導方法は未だ確立されていない。そこで今回我々は、第4回国際歯科技工学術大会にて開催される「テクニカルコンテスト(日本歯科技工学会賞)【NDT プライズ】」の学生部門に出場する3名を選抜するため、本科生全員を対象に学内審査を行って上位10名を選出し、夏期休暇中に強化トレーニングを行ったところ、学生指導方法について若干の知見が得られたので報告する。

【方法】

対象：平成20年6月に本科1, 2年生101名を対象に学内審査を行い選抜した上位10名
課題：「下顎左側第一大臼歯」の石膏彫刻(制限時間1時間)

指導期間：平成20年8月4日～29日(実日数18日)なお、出席は任意とした。

指導方法：到達目標を設定し、各自のレベルにあわせて大沼助手が個人指導を行った。

調査方法：①出席率とレベル到達度ならびに、コンテストの結果について分析した。②参加者に今回の指導方法についてアンケート形式の聞き取り調査を行った。

【結果および考察】

出席率と到達度およびコンテスト優勝者の間に相関は無かった。これは今回のトレーニング開始時点で、既に参加者が高いレベルにあったためと考える。またアンケートの結果より、競争意識によるモチベーションの向上、個人指導が有効であったことがわかった。

【まとめ】今回の調査結果から、同程度の技能レベルの者同士を集めての少人数制指導の有効性とコンテスト参加による競争意識が技術向上に影響を与えたということが示唆された。

5 「歯科保健指導」教育における口腔内観察実習の有用性

○小野真奈美, 本間和代, 渡邊美幸
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

【はじめに】口腔の健康の維持増進は、全身の健康にとって重要であり、生活の質(QOL)と深く関わっている。そのため「歯科保健指導」は重要な役割を担っている。そこで、学生の歯科保健指導への関心を高め、その能力を修得させるため、家族の口腔内を正しく観察し、関心をもたせて、学習意欲の向上を図るとともに、家族に歯科保健指導ができるようにすることを目的とした。

【方法】①対象：明倫短期大学歯科衛生士学科 2年生 99名(平成19年度入学生) ②時期：平成20年8月5日～9月2日の夏期休暇中 ③方法：各種診査器具を使用し、口腔内診査(歯牙の状態、ポケット測定、出血の有無、動揺度、PCR、DMFT)を行い、その結果に基づいて保健指導を実施し、観察結果、家族の協力度、実施後の感想をまとめさせた。

【結果および考察】学生が実施した対象者数は2人が35人(38%)、続柄では、母が75人(32%)と最多で、昨年と同様の傾向を示した。観察結果は、

出血があった者は、対象者の約半数で、動揺がみられたのは、祖母が6人(50%)と最も多かった。5ミリ以上のポケットがみられたのは、祖父が4人(50%)と最も多かった。DMF 歯率は、父母、祖父では、概ね21～60%代の者が多かった。祖母においては、91～100%台の者が5人(41.7%)であった。兄弟、弟妹では、10%代以下の者が多かった。またPCRは、続柄や年齢に関係なく、概ね11～50%代の者が多かった。

実施後の感想では、口腔状態に関することから、家族を対象に実施した感想など多岐にわたった。身近な人の口腔状態を把握したことで保健指導に関心を持ち、その重要性和、知識・技術の向上の必要性を感じた者が多かった。それにより、今回の体験実習は、学生にとってよい動機づけになったと思われる。今後は、本体験実習をさらに早い時期に行うとともに、「指導型教育」から「学習支援型教育」にも力を入れて、保健指導科目に興味をもたせていきたい。

6 明倫短期大学における理系科目初年次教育プログラムの検討

— 本学学生の理系科目成績と素行や嗜好との関連性の調査 —

○植木一範(明倫短期大学歯科技工士学科)

【はじめに】現代社会において理系離れが進んでいるといわれている。また、少子化による大学全入化も間近く、学生の基礎学力低下は避けられない時代となっている。国家試験合格を念頭に置く本学の教育では、国家試験出題内容に関わる基礎学力については最低限、初年次教育などで再教育する必要があるようである。数学や理科の応用科目について、本学学生は特に苦手とする傾向が強く、初年次教育としてのプログラムを既存科目内において検討している。そこで実態把握を目的として、理系科目の成績と、本学学生の素行や嗜好などとの関連性を調査したので報告する。

【対象および方法】対象は平成19年度および20年度歯科衛生士学科1年生171名とした。理系科目として今回は数学を多用する「情報統計論」における成績を対象とした。比較したアンケートの内容は、学生の素行について、普段から勉強する姿勢があるか、コンピュータを普段から扱うか、内向的か外向的かなどの項目をあげ、嗜好については、数学や理科に対する得意不得意、その他趣

味や興味となる項目をあげて調査した。

【結果および考察】アンケートの結果、対象学生の素行や嗜好傾向について、普段から勉強する姿勢があると答えた学生は7.7%と低い値を示した。次いで、IT機器に詳しい19.5%、情報系資格を持つ20.6%、数学が得意である40.0%、理系系に得意科目がある47.1%とそれぞれ半数に満たなかった一方、情報収集や携帯電話の利用、ショッピングなどの項目では70%以上の者が興味あると回答した。さらに情報統計論の成績をランクに分類し、素行や嗜好の項目との独立性についてカイ2乗検定を用いて分析した。その結果、90点以上のものとコンピュータとインターネットおよびIT、または勉強と美術の項目などとの関連性がみとめられた。また、素行および嗜好の項目間の独立性を検定した結果、理科を得意とするものと、勉強すること、読書すること、買い物をするそれぞれとの関連性が認められた。これらの結果により、理系科目成績と、本学学生の素行や興味などとの関連と実態が明らかになった。

7 視覚障害者および高齢者疑似体験学習の教育効果

○渡邊美幸, 平澤明美
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

【はじめに】高齢者の人口増加にともない, 心身に障害を有する高齢者等との対応が多く場面での歯科衛生士にも求められるようになってきた。そのなかで障がい者や高齢者特有の身体的および精神的な面の配慮は必須であり, それを理解することは重要と思われる。そこで本学では, 選択科目である介護技術論の実習の一環として, 実体験から障がい者や高齢者への理解を深めることを第一の目的に視覚障害者および高齢者疑似体験学習を行った。その教育効果について検討したので報告する。

【対象および方法】対象は, 介護技術論を選択し, 本体験学習に参加した本学歯科衛生士学科 2 年生 94 人である。体験学習の方法は, 2 人 1 組とし, 視覚障害者および高齢者疑似体験者役, 介助者役を交代で行うことにより, 身体的および精神的な考察を得られるよう考慮した。体験学習前後に自由回答形式でのアンケートを行い, その結果を比較, 検討した。

【結果および考察】どんなことに注意して歩行介助をしたほうが良いと思うかとの質問に対し, 視覚障害者については体験学習前, 障害物を避けるなどして安全に誘導すると回答した者が 63 人と最も多く, 次に周囲の状況説明および確認が 58 人であった。体験学習後は周囲の状況説明および確認が最も多く 86 人, 次いで積極的な声かけが 61 人であり, 実体験から具体的な介助方法を学習したことが伺える。高齢者については体験学習前後ともに高齢者のペースや体調に合わせてと回答した者が最も多く, 次いで安全に介助するであった。また, 本体験学習後, 視覚障害者の不自由さが理解できたかとの質問に対し, 大変よく理解できたと回答した者が 83%、高齢者についても 67% であった。これは本体験学習を通し, 視覚障害者や高齢者の気持ちを理解することができると同時に具体的な介助方法や関わり方を自ら考え, 実践できるものと思われる。今後は体験学習での教育効果を継続し, より充実したものにしていきたい。

8 中学生に対する歯肉炎予防指導の取組み

○木戸真紗美, 渡邊美幸, 本間和代
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

【はじめに】思春期はホルモンバランス等により歯肉炎が悪化する時期であり, セルフケアが重要であると考えられる。本学歯科衛生士学科では, 臨床実習の一環として中学校での歯科保健教育実習を行ってきた。そこで今回①健康な歯肉と歯肉炎を見分けられる②歯の正しい清掃法を身につけることを目標に, 歯肉炎予防の講話とブラッシング指導を行ってきた。本年実施後, アンケートによりその理解度を調査したので報告する。

【対象および方法】①対象: 新潟市立曾野木中学校 1 年生 3 クラス 104 名。②時期: 平成 20 年 5 月 (4 月に歯科検診実施) ③方法: 歯肉炎の症状と原因について講話を行い, 口腔内の染め出し, ブラッシングとフロッシング指導終了後, アンケートを実施した。内容は, 歯肉炎部位のスケッチ, 健康歯肉の理解, ブラッシング等 7 項目についてである。

【結果および考察】歯科検診において歯肉に炎症があったものは 15 人 (14%) であった。保健教育実習後のアンケートでは, 健康な歯肉については「わ

かった」, 「少しわかった」と解答した者が 102 名 (98%) であった。歯肉の発赤・腫脹部位のチェックについてはほとんど色塗りがされなかった。ブラッシングは, 朝食後が 88 名 (39%) と最も多く, 次いで就寝前が 78 名 (34%) であった。感想としては, 歯のことがわかった, 歯の磨き方, フロスの使い方がわかった, 歯肉炎にならないように気をつけて磨きたいなどであった。今回の歯科保健教育では, 健康な歯肉の状態やブラッシング方法の理解につながった一方, 口腔内の自己観察では健康な歯肉と歯肉炎を判断するのは難しかったのではないと思われる。その対応として, 歯科保健教育では, 口腔内写真の使用や, 個別指導による口腔内の自己観察能力を身につける援助が必要と考えられる。口腔内環境を良い状態で維持していくためには, 若年層より, 健康歯肉と歯肉炎の状態を判別できるようにする指導を今後も継続していくことが重要と考える。

9 新発田市民における口腔衛生の実態と意識調査

○幸田奈美, 平澤明美, 本間和代
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

【はじめに】近年, 予防歯科の広がりとともに, 国民の口腔衛生に対する意識や行動が高まってきている。明倫短期大学では, 6月の歯の衛生週間に新発田市歯科医師会主催で実施される「むし歯予防週間公衆衛生事業」に平成8年より参加し, 毎年約200名の市民に対し口腔衛生指導等を行なってきた。今回, 本事業に来場した新発田市民に対し日ごろの口腔衛生に対する実態と意識について調査したので報告する。

【方法】①対象者: 「平成20年度むし歯予防週間公衆衛生事業」の口腔衛生指導コーナーに来場した新発田市民173名 ②時期: 平成20年6月7日(土) ③方法: 口腔衛生指導時に聞き取り調査を行なった。

【結果および考察】対象者は5歳未満が43.9%, 5歳以上10歳未満が43.9%, 10歳以上15歳未満が8.1%, 15歳以上が4.1%と小児の割合が高かった。また, 男子49.7%, 女子50.3%と性差はなかった。毎日歯を磨いている者の割合は100%で, 回数別には, 1回が15.6%, 2回が36.9%, 3回以上が47.5%と

1日3回磨く者の割合が高かった。平成17年歯科疾患実態調査では1日2回磨く者が最も多かったことから, 対象者の口腔衛生に対する意識の高さがうかがえた。1日3回のブラッシングのうち, う蝕予防効果が高いと考えられる就寝前のブラッシングを行っている者は97.1%だった。歯磨剤は89.6%の者が使用していた。歯ブラシ以外の補助清掃用具を使用している者は26.1%で, フロスの使用が最も多かった。また, これまでに歯科医師や歯科衛生士から口腔衛生指導を受けたことのある者は66.5%, 歯科医院で定期健診を受けている者は63.1%だった。

【まとめ】本事業に参加した市民の口腔衛生に対する意識は非常に高いことがわかった。今後は, セルフケアだけでなく, プロフェッショナルケアの重要性を伝え, 1人でも多くの市民がかかりつけ歯科医をもち, 定期的に健診を行うことで口腔の健康を維持し, QOLの向上につなげるよう援助していきたいと考えている。

10 ペングリップ等の要因が指頭感覚操作の精度に及ぼす影響

○本間和代, 幸田奈美, 小野真奈美, 木戸真紗美
(明倫短期大学歯科衛生士学科)

【はじめに】学生の筆記時におけるペンの太さや把持法はさまざまである。また, 左手を利き手とする学生もおり, 歯科衛生士の指頭感覚による微細な操作を必要とする歯石除去等において, その筆記習慣が影響していないか考えた。また, 左手を利き手とする学生に, 右手に切り替える努力を求めることも技術力アップや危険性の面から適切であるか指導にあたり悩むところである。

【目的】学生の利き手および使用するペンの太さ・把持法の違いによる精密操作への影響の有無を知ることを目的に, 日常の把持法でペンを持ち, 多方向へのペンの動きの速さと正確度を, 実習進度の異なる3群について調べた。

【方法】平成20年度, 明倫短期大学歯科衛生士学科に在籍する1~3年生(女子:247人)を対象とした。調査内容は, 筆記時の①利き手, ②ペンの把持法, ③ペンの太さ, ④清書した文字数(以下, 字数), ⑤文字の正確度である。清書した文字数は, 日頃使用しているボールペンを用いて, 点線の50音のひらがなの上を2分間でなぞった字数

を数えた。また, 正確度については, 点線文字からのみ出し状況を, 正確, やや正確, 不正確の3段階で評価した。統計解析は, 回帰分析および一元配置分散分析, χ^2 検定を用いた。

【結果および考察】左手を利き手とする者は8人(3.2%), ペンの把持法は5型に別れ, 最多はA法(第1指と2指の指頭でペンを挟む)であった。字数×正確度を基準変数として回帰分析を行った結果, 把持法, ペンの太さのうち, 2・3年生に細かいペン軸と速くてきれいな字の相関関係があった($p=0.01, 0.0006$)。一元配置分散分析によれば, 1・2年生に比較して3年生の字数×正確度は劣っていた($p\pm 0.00005$)。 χ^2 検定では2年生に正確・やや正確・不正確のうち, 正確の比率が高かった。利き手の違いによる差は, 左利き手の割合が少なかったことから比較に至らなかった。相対的に歯石除去訓練を終了している3年生の効果を期待したが, 明確な結果は得られなかった。本実験より, 正確な指頭感覚操作はペンの太さや把持法以外にも多くの要因が関わっていることが推測される。

1 1 歯科技工実習における騒音実態調査

○五十嵐雅子, 植木一範 (明倫短期大学歯科技工士学科)

【はじめに】歯科技工士は社会の高度な要求に対し, 高い技術と材料や器具を効率的に利用し, 高い精度と強度, 審美性に優れる補綴物を製作しなければならない。その実現には, 作業環境の整備を行い, 品質および効率の向上または歯科技工士の健康管理を心がける必要がある。本学の歯科技工実習においても, 実習室内で長時間作業に曝されるため, 実習環境の整備は優先事項とされている。本調査では実習室における騒音環境の実態調査を行い, 改善すべき点を明らかにしたので報告する。

【対象および方法】歯科技工士学科2年生47名を対象とした。実習中の騒音について, 騒音計による実態調査とアンケートを行った。測定場所は, 歯科技工士学科1階実習室の中央(通路側), 測定方法は騒音計(CUSTOM(株)製 SOUNDLEVEL METER SL-1370)を用いて, 歯冠修復技工学の実習中に発生する騒音を1分毎に測定を行った。また, 学生が不快と感じる状況について測定データと器具の使用状況, アンケート結果で, 比較検討した。

【結果および考察】歯冠修復技工学の実習での騒音を測定した結果, 作業模型製作から最終研磨ま

での一連の技工操作の中で, ワックスアップの操作は比較的静音であった。最小値の平均(以下Min)が41.6dB、最大値の平均(以下Max)が49.8dBであった。集塵機とモデルトリマーを使用した場合はMin 74.5dB, Max 79.6dB, 集塵機とエアを使用した場合, Min 73.2dB, Max 78.3dB, 集塵機のみを使用した場合, Min 74.2dB, Max 77.5dB, 集塵機とスチームを使用した場合, Min 74.8dB, Max 77.1dBであった。いずれも環境基本法16条第1項の規定に基づく環境基準60dBを22%以上上回った。また, 最大値80dB以上を示した状況はすべて集塵機を使用した場合であった。アンケート結果からも, 学生が不快と感じる状況は, 1位エアカッター, 2位と3位が集塵機を使用している場合であった。以上のことから, 学生が騒音を不快と感じている環境は集塵機を使用している場合であることがわかった。

【まとめ】騒音の曝露は学生の身体的, 作業効率に大きく影響すると考えられるので, 快適に学業に取り組める環境を提供できるように作業環境の騒音低減は重要であると考えられる。

～ ご 案 内 ～

I. 参加者の方へ

1. 受付： 当日11時より明倫短期大学5号館大講堂前にて受付致します。
2. 年会費： 正会員¥3,000, 準会員¥1,000, 学生会員は免除
賛助会員¥10,000 (賛助法人に所属する職員は会費免除)
3. 懇親会費： ¥2,000
4. 入会： 当日, 新入会を受付致します。

II. 演者の方へ

- ・ 次演者の方は講演10分前までに「次演者席」に着席下さい。
- ・ 一般講演時間は8分以内, 質疑応答は2分です。
時間厳守および座長の指示に従い円滑にわかりやすく発表を行って下さい。
- ・ パソコン用液晶プロジェクターは一台です。

III. 座長の先生方へ

- ・ 次座長席に, 担当セッション開始10分前までに着席下さい。
- ・ スケジュールが切迫しておりますので, 円滑な進行をお願い致します。

明倫短期大学学会 事務局 連絡先

〒950-2086 新潟市真砂3-16-10 明倫短期大学内

TEL: 025-232-6351 FAX: 025-232-6335

E-mail: gakkai@meirin-c.ac.jp URL: <http://www.meirin-c.ac.jp/~gakkai/>